

8. トラブルの対処方法

油圧ポンプのトラブルは、「ポンプの圧力が上がらない」、「油圧ジャッキが伸びない」
「ポンプの荷重計の針が動かない」、
「KOPL土圧計付油圧ジャッキの針が動かない」
というものがほとんどです。その原因と対処法を下記に記します。

① 現場での保管上の注意

工場出庫時は、加減圧バルブを閉め、切換レバーを中立にしてあります。
使用後は、オイルが自然に流れ出ないように、同じように
加減圧バルブを閉め、切換レバーを中立にして保管してください。

② 「ポンプの圧力が上がらない」、「油圧ジャッキが伸びない」の原因と対処。

原因	処置
加減圧バルブを締め付けていない。	加減圧バルブを締め付けます。
オイルキャップを緩めていない。	オイルキャップを緩めます。緩めないと、タンク内の空気の出し入れが出来なくなります。
オイルがほとんど無い、また、オイルが入っていない状態で操作し、ポンプ内にエアが混入した。	オイルを補充します。また、シリンダーピストン内に、エアが入ってしまうため、「エア抜き」を行います。
オイルは満タンだが、オイルの補充を繰り返すうち、エアが混入した。	//
※エア混入の確認方法 切換レバーを中立にし、バルブを締め付け、ハンドル棒を少し動かした時、“遊び”があるようならその遊び分、エアが混入しています。	

<p>加減圧バルブを閉めた状態(高圧のかかった状態)で切換レバーを動かした。</p>	<p>高圧のかかった状態で切換レバーを動かすと、故障します。 工場修理となります。</p>
<p>高圧ホースが、油圧ジャッキに正しく接続されていない。</p>	<p>正しく、押し側・戻し側に接続してください。</p>
<p>オイルに水が混入している。</p>	<p>オイルに水が混入すると、うまく作動しません。オイルが白く濁ったりしていると、水が混入しています。 オイルを新しいものに交換してください。 その際、エア抜きを必ず行ってください。</p>
<p>切換レバーが正しい位置に無い。</p>	<p>切換レバーの押し側・戻し側を正しい位置にして使用してください。 中立位置にして使用すると、外圧がかかっていなくてもポンプのゲージは作動します。</p>
<p>ホースが破損している。</p>	<p>ポンプ本体ごと交換になります。 ホースには高圧がかかる為、テーピング等をして使用しないで下さい。</p>
<p>ポンプ内に異物が混入している。</p>	<p>ポンプ本体ごと交換になります。 オイル注入口から砂や粉塵等が混入する事があります。</p>
<p>ポンプではなく、ジャッキが何らかの原因で故障している。</p>	<p>ジャッキを交換します。</p>

③「ポンプの荷重計の針が動かない」、

「KOPL土圧計付油圧ジャッキの針が動かない」の原因と対処。

原因	処置
油圧ジャッキに外圧がかかっていない。	油圧ジャッキに外圧がかかっていないと、油圧ジャッキ・油圧ポンプの荷重計は動きません。 ポンプの切換レバーを中立にして加圧し、ポンプの荷重計の針が動けば、故障ではありません。
振動や衝撃でゲージの針がとんだ。	本体ごと交換します。 油圧ジャッキ・ポンプを倒したり、ぶつけたりする事で、ゲージの針がズレたり、外れる事があります。

④「複数のジャッキを複数の手動ポンプで、一斉に動かした。ハンドル棒を同時に

動かしているのに、ジャッキのストロークが一定の速さで伸びて行かない。」

原因	処置
ポンプが低圧から高圧に切換わるタイミングは、手動ポンプの場合、一定ではありません。	このようなプレロード工法やジャッキを同時に上げ下げする使用では手動ポンプは、使用しないで下さい。 電動ポンプ、プレロードユニットを組み合わせた方法で作業してください。